

**昭和音楽大学音楽学部音楽芸術表現学科の収容定員変更における  
学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）**

目 次

|  |    |
|--|----|
| (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 . . . . .                     | 2  |
| ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析                         | 2  |
| イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析 . . . . .                            | 5  |
| ウ 新設学科等の趣旨目的, 教育内容, 定員設定等 . . . . .                      | 8  |
| エ 学生確保の見通し . . . . .                                     | 11 |
| オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 . . . . .                       | 21 |
| (2) 人材需要の動向等社会の要請 . . . . .                              | 23 |
| ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） . . . . .                  | 23 |
| ② 上記①が社会的, 地域的な人材需要の動向等を踏まえた<br>ものであることの客観的な根拠 . . . . . | 25 |

## (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

昭和音楽大学（以下「本学」という）は、平成 29 年 4 月に、国際的な視野をもって幅広いジャンルの音楽作品を創作できる人材、または舞台等で実践的に活躍できる人材を養成するために音楽芸術表現学科を開設した。学科の特色としては次の 3 点である。

1. 音楽および音楽関連の分野で社会に貢献するために必要不可欠な基礎的・汎用的な能力を固め、その上に高度な専門性を築くという、汎用性と専門性の 2 つの方向性が持てること
2. 16 の幅広いコースを設置し、学生のニーズに合わせたきめ細やかな教育が展開できること
3. 多様な音楽スタイルを一つの学科に統合することで音楽を幅広く捉え、領域横断型の教育研究ができること

このような特色を持つ音楽芸術表現学科の入学者数は、直近 5 年の平均で 209.6 名、入学定員充足率は 114.6%となっており、堅調に学生確保が達成されているものと認識している。また、多様な学生の受け入れによって、将来的に減少が見込まれる 18 歳人口の影響が軽減できており、安定した学生確保に対する取り組みとして効果を上げている。

現状の課題としては、新型コロナウイルスの感染拡大に関する行動制限等の解除・緩和や新コースの開設を考慮した募集広報活動を展開することで、本学への入学意欲、相応の学力・能力を有する学生に対して、広く本学の門戸を開くことである。また、直近 5 年で平均 110.0%を超えている入学定員充足率の適正化も重要な課題として認識しており、これら 2 つの課題、双方に対して適切な対処が必要であると認識している。

#### **1. 志願者数・入学者数の推移**

音楽芸術表現学科の過去 5 年間の入学定員、志願者数、受験者数、合格者数、入学者数等は表 1 のとおりである。過去 5 年間の志願者数の平均は 317.2 名であり、志願倍率の平均は 1.73 倍である。また、入学者数の平均は 209.6 名であり、入学定員充足率の平均は 114.6%である。また、収容定員充足率については表 2 のとおりである。

〔表 1〕 音楽芸術表現学科における学生確保の状況

|                      | 令和元<br>年度 | 令和 2<br>年度 | 令和 3<br>年度 | 令和 4<br>年度 | 令和 5<br>年度 | 平均     |
|----------------------|-----------|------------|------------|------------|------------|--------|
| A. 入学定員              | 175       | 185        | 185        | 185        | 185        | 183    |
| B. 志願者数              | 305       | 332        | 322        | 321        | 306        | 317.2  |
| C. 受験者数              | 302       | 327        | 319        | 316        | 302        | 313.2  |
| D. 合格者数              | 269       | 262        | 283        | 271        | 264        | 269.8  |
| E. 入学者数              | 214       | 210        | 216        | 192        | 216        | 209.6  |
| F. 入学定員<br>充足率 (E/A) | 122.3%    | 113.5%     | 116.8%     | 103.8%     | 116.8%     | 114.6% |
| G 志願倍率<br>(B/A)      | 1.74      | 1.79       | 1.74       | 1.74       | 1.65       | 1.73   |

※令和 2 年度に入学定員を 175 名から 185 名に増やしたが、編入学定員を 20 名減少させたため  
音楽芸術表現学科全体の収容定員は変更なし

〔表 2〕 音楽芸術表現学科における収容定員充足状況

|                      | 令和元<br>年度 | 令和 2<br>年度 | 令和 3<br>年度 | 令和 4<br>年度 | 令和 5<br>年度 | 平均    |
|----------------------|-----------|------------|------------|------------|------------|-------|
| A. 収容定員              | 770       | 760        | 750        | 760        | 770        | 762   |
| B. 在学生数              | 568       | 773        | 833        | 864        | 854        | 778.4 |
| C. 収容定員<br>充足率 (B/A) | 0.73      | 1.01       | 1.11       | 1.13       | 1.10       | 1.01  |

※収容定員充足率は小数点以下第 3 位以下を切り捨て

私立大学の音楽学部全体の志願倍率と音楽芸術表現学科の志願倍率を比較した表 3 を参照すると、志願者数・志願倍率は他の私立大学との比較においても、堅調な推移であることが確認できる。

〔表 3〕 音楽学部全体の志願倍率と音楽芸術表現学科の志願倍率

|                        |      | 平成 30<br>年度 | 令和元<br>年度 | 令和 2<br>年度 | 令和 3<br>年度 | 令和 4<br>年度 |
|------------------------|------|-------------|-----------|------------|------------|------------|
| 私立大学の<br>音楽学部<br>全体    | 志願者数 | 3,877       | 4,160     | 4,389      | 4,029      | 3,932      |
|                        | 入学定員 | 3,136       | 3,196     | 3,171      | 2,991      | 2,955      |
|                        | 志願倍率 | 1.24        | 1.30      | 1.39       | 1.35       | 1.33       |
| 昭和音楽大学<br>音楽芸術表現<br>学科 | 志願者数 | 261         | 305       | 332        | 322        | 321        |
|                        | 入学定員 | 175         | 175       | 185        | 185        | 185        |
|                        | 志願倍率 | 1.49        | 1.74      | 1.79       | 1.74       | 1.74       |

過去 5 年間の入学者が入学定員を下回ったことはなく、志願者数、入学者数ともに堅調に推移している。

## 2. 多様な学生の受け入れと安定的な学生確保

入学者の24.0%は19歳以上の入学者と外国人留学生在が占めており（令和4年度実績）、多様な学生を受け入れている実績がある。学生確保が全面的に18歳人口に依存するリスクが軽減されており、高等学校・高校生以外にも、多方面に学生募集が展開できている。多様な学生の受け入れは、安定して学生を確保するための重要な取り組みと認識している。

19歳以上の入学者、いわゆる既卒の入学者は過去5年間の平均が34.6名となっている（表4）。年度によりややばらつきはあるものの、入学者に対する割合は、平均して16.4%である。

〔表4〕 音楽芸術表現学科の既卒の入学者数とその割合

|          | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 平均    |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 既卒入学者（A） | 33    | 26    | 37    | 29    | 48    | 34.6  |
| 入学者（B）   | 214   | 210   | 216   | 192   | 216   | 209.6 |
| 割合（A/B）  | 15.4% | 12.4% | 17.1% | 15.1% | 22.2% | 16.4% |

また、外国人留学生の過去5年間の入学者は表5のとおりである。入学者に対して外国人留学生在が占める割合は平均して9.7%であり、増加傾向にある。

〔表5〕 音楽芸術表現学科の外国人留学生数とその割合

|           | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度        | 令和5年度 | 平均    |
|-----------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|
| 外国人留學生（A） | 15    | 12    | 18    | 17<br>※内未入国2 | 40    | 20.4  |
| 入学者（B）    | 214   | 210   | 216   | 192          | 216   | 209.6 |
| 割合（A/B）   | 7.0%  | 5.7%  | 8.3%  | 8.9%         | 18.5% | 9.7%  |

## 3. 通学圏外（関東以外）の入学者数の回復

新型コロナウイルスの感染が令和3年度以降拡大し、令和3年度、令和4年度はその影響によって通学圏外（関東以外）からの入学者が減少した。音楽芸術表現学科の都道府県別の入学者は【資料1】のとおりであるが、通学圏内と圏外（関東以外）に分けた表6を見ると、通学圏外（関東以外）の入学者が最大102名（令和2年度）から令和4年度は63名と39名の減少となり、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けている。今後、新型コロ

ナウウイルスの影響が低くなることが想定されるため、通学圏外（関東以外）の入学者が過去5年間の平均である84.2名程度までは回復することが見込まれる。このような状況に対応するため、通学圏外（関東以外）の学生募集活動にも注力することが直近の課題の一つと考えている。

〔表6〕 音楽芸術表現学科の通学圏内、通学圏外別入学者数

|            | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 平均    |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 通学圏内（関東）   | 129   | 108   | 132   | 129   | 146   | 119.2 |
| 通学圏外（関東以外） | 85    | 102   | 84    | 63    | 70    | 84.2  |
| 合計         | 214   | 210   | 216   | 192   | 216   | 203.4 |

#### 4. 新コース「声とことばの創造表現コース」の開設

令和6年4月には新コース「声とことばの創造表現コース」（【資料2】）の開設を予定しており、新たな学びの分野が加わる。当該コースに関心を有する新たな受験者層の獲得が見込まれる。なお、当該コースに関するPR、学生募集活動を効果的に実施することが直近の課題の一つと考えている。

#### イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

本学は地域貢献活動を積極的に行い、地域における音楽文化の醸成や活性化に対する地域・社会的ニーズに応じている。また、「近年では学べる専門分野も広がりを見せたこともあり、更なる多種多様な領域での幅広い活躍及び貢献が大いに期待され」（川崎市の収容定員増に関する副申書（【資料3】））であり、今後、更にこのような地域的、社会的ニーズが増えるものと想定される。また、本学の地域貢献活動を小・中・高生時代に体験した生徒が入学するケースも出てきている。さらに、附属音楽・バレエ教室からの入学者〔表7〕、本学が主催する「高校生のための歌曲コンクール」参加からの入学者〔表8〕はそれぞれにおいて、過去5年間平均で10名以上の実績がある。

〔表7〕 附属音楽・バレエ教室からの音楽芸術表現学科 入学者数

|      | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 平均   |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 入学者数 | 17    | 11    | 14    | 10    | 10    | 12.4 |

〔表 8〕 「高校生のための歌曲コンクール」参加からの入学者

|      | 令和元<br>年度 | 令和 2<br>年度 | 令和 3<br>年度 | 令和 4<br>年度 | 令和 5<br>年度 | 平均   |
|------|-----------|------------|------------|------------|------------|------|
| 入学者数 | 17        | 22         | 12         | 16         | 6          | 14.6 |

地域・社会的ニーズへの対応が学生募集につながり、それらの学生が地域における音楽文化の醸成や活性化に取り組む等、地域・社会的ニーズへの対応と学生募集との好循環が形成されつつある。以下、いくつか具体的な取組みを記載する。

### **1. 演奏会・公演活動による鑑賞機会の提供**

本学が主催する演奏会・公演は、音楽や芸術を通して地域社会の発展に取り組んでいる本学の特色を最大限活用し、かつ成果を挙げている最も顕著な例といえる。近年の来場者の年間平均は 9,700 名を超えている。また、平成 22 年度には、卒業生を中心として編成する「テアトロ・ジューリオ・ショウワ・オーケストラ」を発足させ、新百合ヶ丘の地に密着したオーケストラとして活動している。特に平成 25 年にスタートした第九演奏会は好評を博し、新百合ヶ丘の年末の風物詩となっている。

### **2. 生涯学習機会の提供**

本学の教育資源を地域に提供するため、演奏会や公演活動のほか、公開講座の開講や附属音楽・バレエ教室、附属ストリングスアカデミーの運営を行い、活力と潤いのある地域社会づくりに貢献している。

公開講座は、受講生参加型、複数回開催するシリーズ型、演奏会と連携して講座を行うタイアップ型等講座形態は多様である。附属音楽・バレエ教室は、新百合ヶ丘地域を中心として、神奈川県内に 7 教室（新百合ヶ丘、海老名、小田原、センター北、藤沢、戸塚、武蔵小杉）、県外に 1 教室（仙台）を展開し、3,000 名を超える生徒が在籍している。開校して 40 年以上の実績があり、趣味や教養を深めたい方から音楽大学進学希望者まで、さまざまな目的を持った生徒が在籍し、一人ひとりの進度に応じて行う個人レッスンや、バレエやヴォーカル、語学等のグループレッスン等多様なコースを設置することにより、音楽に親しみ、学ぶことができる場を提供している。

### **3. 本学施設の提供**

「テアトロ・ジューリオ・ショウワ」の「ジューリオ」はイタリア語で「ユリ」を意味する。施設内にある劇場「テアトロ・ジューリオ・ショウワ」とコンサートホールである「ユリホール」は、いわば「二つのユリ」として地域での音楽活動のシンボルとして認知されている。「二つのユリ」は、本学主催イベントだけでなく、外部の演奏団体や高等学校の公演・コンクール等にも広く利用されている。

#### **4. 高校生への学習支援**

本学では、声楽家を目指す高校生の学習支援を目的とした「高校生のための歌曲コンクール」を平成12年から主催している。参加者には歌唱学習についての無料相談会の実施（予選会終了後、各会場にて実施）、希望者へのフォローアップレッスンを実施している。本コンクールの本選は、本学施設の「テアトロ・ジーリオ・ショウワ」にて開催し、ステップアップの機会を提供している。直近5年の平均において、14名を超える声楽コース等の入学生がコンクール参加者である〔表8〕。また、令和4年度には「高校生のためのミュージカル歌唱コンクール」を新規で開催し、「ミュージカルを専門的に勉強したい」と願う歌が好きな高校生も支援している。令和5年度ミュージカルコースへの入学生の内7名が本コンクール参加者である。

#### **5. コミュニケーションセンターによる地域連携**

「昭和音楽大学コミュニケーションセンター(SCC)」の取組みである「アーツ・イン・コミュニティ」は、川崎市麻生区を中心に、学生によるアウトリーチ活動等の音楽芸術交流活動をとおして、地域貢献と学生自身の成長を実現し、社会性を備えた音楽人の育成を行う取組みで、学生が地域の小・中学校や福祉施設等で演奏会や演奏指導を行う窓口となっている。川崎市教育委員会との連携事業「ジュニア音楽リーダー」では、本学の施設を活用し、本学の学生が川崎市に所在する全市立中学校の吹奏楽部に所属する生徒に楽器の指導を行っている。

#### **6. 地域団体との主な連携**

##### ・「アルテリッカしんゆり（川崎・しんゆり芸術祭）」、「かわさきジャズ」

平成21年から始まった芸術イベント「アルテリッカ」は、音楽、映画、演劇、伝統文化等、さまざまな分野の催しものをそろえた芸術祭として、毎年3月から5月にかけて開催されている。本学は、(公財)川崎市文化財団、地域の大学や劇団、芸術団体とともに、主催団体として自治体や地域の関係者と企画段階から関わっている。

##### ・「新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム」

本学が所在する新百合ヶ丘の魅力を高め、地域の活性化を目指すことを目的として平成30年に結成された「新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム」に、本学は幹事会員として参画している。このコンソーシアムは、駅周辺で定期的で開催している「しんゆりフェスティバル・マルシェ」や「しんゆりステーションピアノ」、秋のハロウィンや冬のイルミネーションイベント等、地域での大規模イベントを一元的にとりまとめており、本学は幹事会員として、新百合ヶ丘地域の活性化やブランド力の向上に貢献している。

#### ・「しんゆり・芸術のまちづくり」

地域資源を活かしたまちづくりを推進している NPO 法人「しんゆり・芸術のまちづくり」に団体会員理事として参画し、麻生区役所とも連携して「芸術のまちづくり」実現のための活動を行っている。

#### ・「川崎市アートセンター」、「川崎市スポーツ・文化総合センター」の指定管理者業務

川崎市アートセンターについては、平成 24 年度より、本学（本学の関連会社株式会社プレルーディオを含む）と川崎市文化財団、日本映画大学の 3 団体で構成する「川崎市文化財団グループ」が、指定管理者に選定されている。川崎市アートセンターは、アルテリオ小劇場とアルテリオ映像館等の施設を備えており、本学は、小劇場の企画運営及び管理業務を中心に行っている。

川崎市スポーツ・文化総合センターについては、平成 29 年度より、本学と株式会社コンベンションリングージ、株式会社プレルーディオの共同事業体が、ホールの企画運営及び管理業務を担当している。本学は主に文化事業制作への協力を行っている。

#### ・「麻生区・大学公学協働ネットワーク」

川崎市麻生区内及び隣接する東京都町田市に立地する大学と行政との間に、互いが保有する知的資源、人材等を有効に利活用できるネットワークを構築することにより、音楽・芸術・福祉・環境・教育その他の分野において、公学連携して活動を展開し、個性豊かで活力に満ちた地域社会づくりに貢献していく事業を展開している。

## ウ 新設学科等の趣旨目的，教育内容，定員設定等

大学等の現状把握・分析及び地域・社会的動向等の現状把握・分析から、本学への入学意欲、相応の学力・能力を有する学生に対して、広く門戸を開くと同時に、直近 5 年（令和元年度から令和 5 年度）において平均 114.6%となっている入学定員充足率の適正化を重要な課題として認識している。これら 2 つの課題、双方に対処するため、当該学科の収容定員の変更（増加）を実施する。

### 1. 定員設定について

音楽芸術表現学科の入学定員を 185 名から 15 名増加させ、200 名とする。それによって、音楽学部の入学定員は 285 名から 300 名〔表 9〕となり、収容定員は 1,180 名から 1,240 名〔表 10〕となる。増加数（入学定員 15 名）の設定について、入学定員の 1.5 倍以上の志願者を確保し、入学試験の質を担保すること、且つ入学定員で定めた入学者数が安定的に確保



できる定員数であることの2点を考慮した。その結果、音楽芸術表現学科の直近5年（令和元年度から令和5年度）での平均志願者数が317.2名、平均入学者数が209.6名であることから、入学定員200名が妥当な定員数であると判断した。

〔表9〕 本学の入学定員

| 大学     | 学科       | 令和5年度<br>入学定員 | 令和6年度<br>入学定員(変更) | 増減 |
|--------|----------|---------------|-------------------|----|
| 昭和音楽大学 | 音楽芸術表現学科 | 185           | 200               | 15 |
|        | 音楽芸術運営学科 | 100           | 100               | 0  |
| 合計     |          | 285           | 300               | 15 |

〔表10〕 本学の収容定員（完成年度）

| 大学     | 学科       | 令和5年度<br>収容定員(現行) | 令和9年度<br>収容定員<br>(完成年度) | 増減 |
|--------|----------|-------------------|-------------------------|----|
| 昭和音楽大学 | 音楽芸術表現学科 | 770               | 830                     | 60 |
|        | 音楽芸術運営学科 | 410               | 410                     | 0  |
| 合計     |          | 1,180             | 1,240                   | 60 |

## 2. 学生納付金の設定

学費については、表11のとおりとする。志願者数、入学者数を安定的に確保するため令和4年度実績と同じ金額で設定した。全国の音楽系統の大学において、おおよそ中位に位置する学生納付金の設定〔表12〕となっており、妥当な金額である。

〔表11〕 本学の学生納付金

| 年度    | 入学金<br>(A) | 授業料<br>(B) | 施設費<br>(C) | 合計<br>(A)+(B)+(C) | 備考/その他の<br>費用                        |
|-------|------------|------------|------------|-------------------|--------------------------------------|
| 入学年度  | 200,000    | 1,390,000  | 630,000    | 2,220,000         | ※入学時のみ<br>同僚会費28,000円<br>学生会費27,500円 |
| 2年次以降 | -          | 1,390,000  | 630,000    | -                 |                                      |

〔表 12〕 全国の音楽系統大学の学生納付金（令和 4 年度実績）

| 大学名           | 入学金<br>(A)     | 授業料<br>(B)       | 施設費<br>相当費目<br>(C) | 合計<br>(A)+(B)+(C) | 標準在学期間<br>納入額合計  |
|---------------|----------------|------------------|--------------------|-------------------|------------------|
| 桐朋学園大学        | 600,000        | 1,360,000        | 640,000            | 2,600,000         | 8,600,000        |
| 国立音楽大学        | 200,000        | 1,250,000        | 800,000            | 2,250,000         | 8,400,000        |
| 武蔵野音楽大学       | 150,000        | 1,390,000        | 670,000            | 2,210,000         | 8,390,000        |
| 東京音楽大学        | 300,000        | 1,487,000        | 525,000            | 2,312,000         | 8,348,000        |
| <b>昭和音楽大学</b> | <b>200,000</b> | <b>1,390,000</b> | <b>630,000</b>     | <b>2,220,000</b>  | <b>8,335,500</b> |
| 東邦音楽大学        | 250,000        | 1,480,000        | 500,000            | 2,230,000         | 8,170,000        |
| 洗足学園音楽大学      | 200,000        | 1,490,000        | 500,000            | 2,190,000         | 8,160,000        |
| エリザベト音楽大学     | 300,000        | 1,300,000        | 300,000            | 1,900,000         | 6,700,000        |
| 平成音楽大学        | 200,000        | 1,060,000        | 490,000            | 1,750,000         | 6,400,000        |
| <b>中央値</b>    | <b>200,000</b> | <b>1,390,000</b> | <b>525,000</b>     | <b>2,220,000</b>  | <b>8,335,500</b> |

※本学調べ：詳細については【資料 4】に記載

※中央値：母集団の分布の中央にくる値。個数  $n$  が奇数の時は真ん中の値を取る。偶数のときは真ん中の 2 つを加えて 2 で割った値。

### 3. 今、定員増をしなければいけない理由

直近 5 年（令和元年度から令和 5 年度）において、音楽芸術表現学科の入学定員充足率は平均 114.6%となっており、入学定員に対して、それを上回る入学者数が継続していること、また令和 5 年度の収容定員充足率は 1.10 倍となっており、収容定員充足率の早急な改善が課題となっていることが定員増を必要とする背景である。学生確保の主となる対象地域（神奈川県・東京都）における 18 歳人口の動向や私立大学（音楽系統の学部）の志願者数・入学者数の推移は横ばいであるが、近隣の競合大学の状況を見ると、継続して入学定員の 1.0 倍以上の入学者を確保している大学とそれ以外の大学との二極化傾向が確認できる。本学は、前者に該当しており、本学に対する入学ニーズは当面、維持もしくは増加の状態と見込める。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大に関する行動制限等の解除による通学圏外からの志願者数の回復や令和 6 年度からの新コース開設により新たな入学者も見込める。このように、令和 6 年度以降において志願者、入学者の増加が見込める要因が複数あり、現在の入学定員ではこれらのニーズに応えることが難しいことが目に見えており、それらが定員増の大きな理由である。本学への入学意欲、相応の学力・能力を有

する学生に対して、広く門戸を開きつつ、入学定員超過率を適切な水準に保つため、音楽芸術表現学科の入学定員増が必要である。

## エ 学生確保の見通し

### A 学生確保の見通しの調査結果

学生確保の見通しについては、後述する学生募集に関するイベント（オープンキャンパス等）参加者数が例年どおり堅調に推移している点をもって、十分な志願者数、入学者数の見通しを得ることができるが、更に慎重を期すため、3種のアンケート調査を実施し、複眼的、総合的に学生確保の見通しに関する分析・検討を行った。いずれの調査も、対象となる高校3年生がより本格的に進路を検討する令和5年4月以降に実施したものであり、直近の状況をより正確に把握できる資料として検討に活用している。

#### ・ 収容定員の変更にに関するニーズ調査 報告書【高等学校3年生】【資料5】

昭和音楽大学音楽学部への進学実績がある高等学校（27校）の協力を得て、当該高等学校の3学年に所属する生徒を対象にアンケート調査を実施した。有効回答数1,983件であった。

大学進学を検討している回答者においては、経済・経営・商業系統に関心を有している回答者が最も多かった（18.7%：308名）が、昭和音楽大学音楽学部音楽芸術表現学科に対応する音楽系統は、経済・経営・商業系、文学・人文系統に次いで3番目に多かった（13.1%：220名）。

大学進学希望者1,651名の内、音楽系統の学びに関心を持つ220名を対象に昭和音楽大学音楽学部音楽芸術表現学科の受験意向を確認したところ、10.0%にあたる22名について、明確な受験意思（「受験したい」の回答）が確認できた。

〔表13〕 受験意向

|   | 単一回答     | n     | %    |
|---|----------|-------|------|
|   | 全体       | (220) |      |
| 1 | 受験したい    | 22    | 10.0 |
| 2 | 受験を検討したい | 63    | 28.6 |
| 3 | 受験しない    | 135   | 61.4 |

また、受験意向を有する（「受験したい」と回答した）22名を対象に、入学意向を集計した。その結果、77.3%にあたる17名について、明確な入学意思（「入学したい」）が確認できた。今回協力を得た27校は、本学の入学実績校の1割程度であることから、実際

の入学者数は170名程度と推定することができる。この数値は入学定員200名の85.0%となる。前述のとおり、本学入学者の18.5%は外国人留学生が占めており（令和5年度実績）、高等学校からの進学者数としては学生確保の視点上、十分な推定値である。

〔表 14〕 入学意向

|   | 単一回答                | n    | %    |
|---|---------------------|------|------|
|   | 全体                  | (22) |      |
| 1 | 入学したい               | 17   | 77.3 |
| 2 | 併願校が不合格の場合に入学を検討したい | 5    | 22.7 |
| 3 | 入学しない               | 0    | 0.0  |

・ 収容定員の変更に関するニーズ調査報告書【資料請求者等対象】【資料 6】

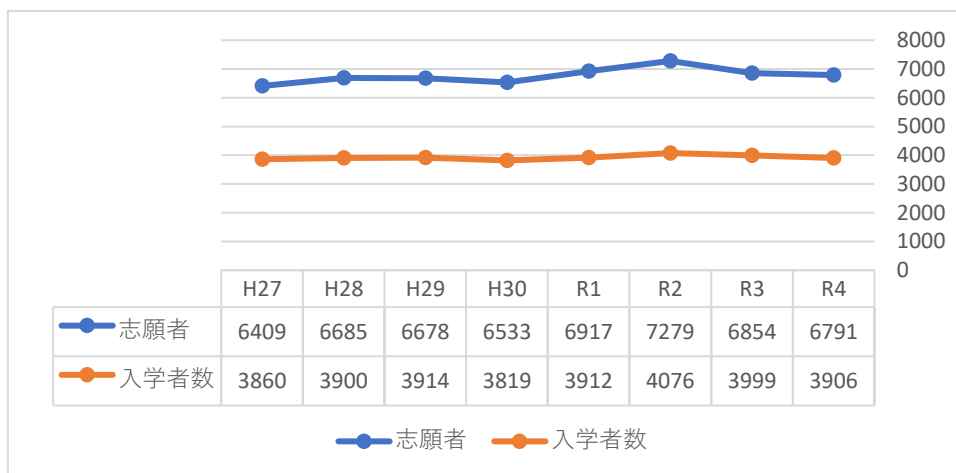
資料請求、広報イベントへの参加者等、昭和音楽大学音楽学部に関心を有する高等学校3年生を対象にアンケート調査を実施した。有効回答数145件のうち、受験意向を有する（「受験したい」と回答した）62名を対象に、入学意向を集計した。その結果、93.5%にあたる58名について、明確な入学意思（「入学したい」）が確認できた。今回協力を得た資料請求、広報イベントへの参加者は、通常の3割程度であることから、実際の入学者数は180名程度と推定することができる。この数値は入学定員200名の90.0%となる。前述のとおり、本学入学者の18.5%は外国人留学生が占めており（令和5年度実績）、高等学校からの進学者数としては学生確保の視点上、十分な推定値である。「収容定員の変更に関するニーズ調査 報告書【高等学校3年生】」と同程度の推定値をこのアンケート調査においても確認することができた。

・ 収容定員の変更に関するニーズ調査報告書【神奈川県・東京都 15歳-19歳 サンプルング調査】【資料 7】

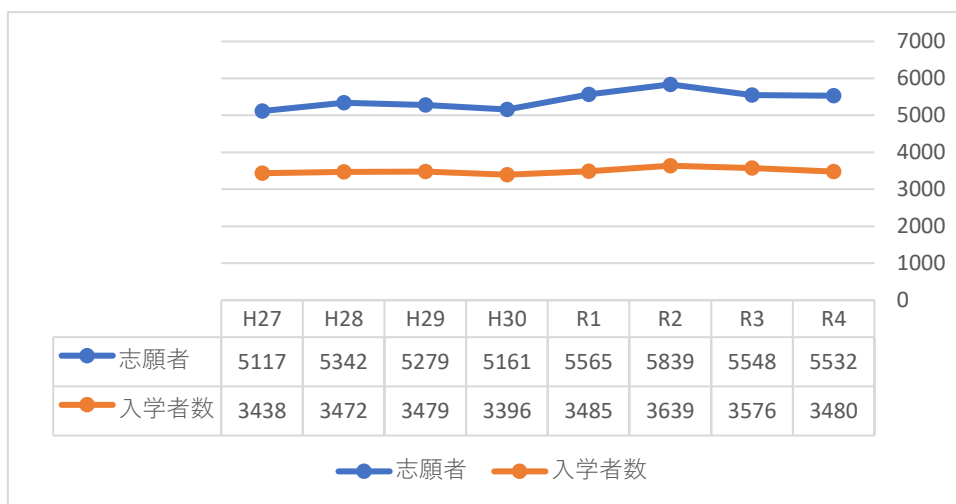
東京都・神奈川県に在住する10代の高校生を対象にアンケート調査を実施した。高校3年生189名のうち、大学進学を希望し、且つ「音楽」に関心を持つ24名のうち、受験意向を有する（「受験したい」と回答した）ものが1名であった。更に、その1名については、明確な入学意思（「入学したい」）が確認できた。アンケートに回答した189名の高校生の0.5%の割合となる。東京都と神奈川県の18歳人口について、図3の令和6年度の予測値を参照し、176,088名とすると、その0.5%は880名となる。このサンプルング調査から、神奈川県及び東京都において、880名の入学意思を持った潜在的な受験生がいるものと推定できる。但し、入学実績校及び資料請求者等と比較すると、本学に関する接点、情報が少ない回答者が多いため、前述の2つのアンケートよりも入学意思の推定に関する誤差はやや大きいものと思われる。

## B 分野の動向

学校基本調査を基に作成された図 1 を参照すると、国公私立の 4 年制大学（音楽系統の学部）における志願者は平成 27 年と令和 4 年度の比率で見ると 1.06 倍であり、横ばいもしくは微増傾向であることが確認できる。また、私立大学のみに着目した場合は、図 2 のとおり、志願者は平成 27 年と令和 4 年度の比率で見ると 1.08 倍であり全体と同様、微増傾向であることが確認できる。



〔図 1〕 国公私立：音楽系統の学部への志願者数と入学者数（学校基本調査）  
（H：平成・R：令和）



〔図 2〕 私立のみ：音楽系統の学部への志願者数と入学者数（学校基本調査）  
（H：平成・R：令和）

「収容定員の変更に関するニーズ調査報告書【神奈川県・東京都 15 歳-19 歳 サンプルング調査】」【資料 7】では、大学進学を希望する高校 3 年生（160 名）の内、15.0%が音楽系統に関心を持っており（表 15・表 16）、他の分野との比較においても、潜在的に十分な需要があるものと認識できる。

また、音楽分野関心者数の割合は、学年が低くなるほど大きくなっている（表 17）。データの解釈に際しては、年齢・学年効果（年齢・学年の進行による個人の意識・行動が変化）に留意する必要があるが、今後の需要拡大も可能性として考慮できる。

〔表 15〕 高校 3 年生大学進学希望者の関心分野（複数回答） (n=160)

| 関心ある分野                         | 回答割合  |
|--------------------------------|-------|
| 芸術・体育・家政(音楽・声優・アニメ・音楽メディア関係等含) | 23.1% |
| 人文科学(文学・語学)                    | 25.0% |
| 社会科学・教育(法学・経済学・社会学/ 福祉・教育/ 保育) | 41.9% |
| 理工学(理学・工学)                     | 30.6% |
| 農学・獣医学                         | 8.8%  |
| 医学・保健衛生(医学/ 歯学・薬学)             | 14.4% |
| 保健衛生(看護・リハビリ等)                 | 6.9%  |
| その他                            | 3.1%  |

〔表 16〕 芸術・体育・家政(音楽・声優・アニメ・音楽メディア関係等含) 回答者の関心分野（複数回答） (n=160)

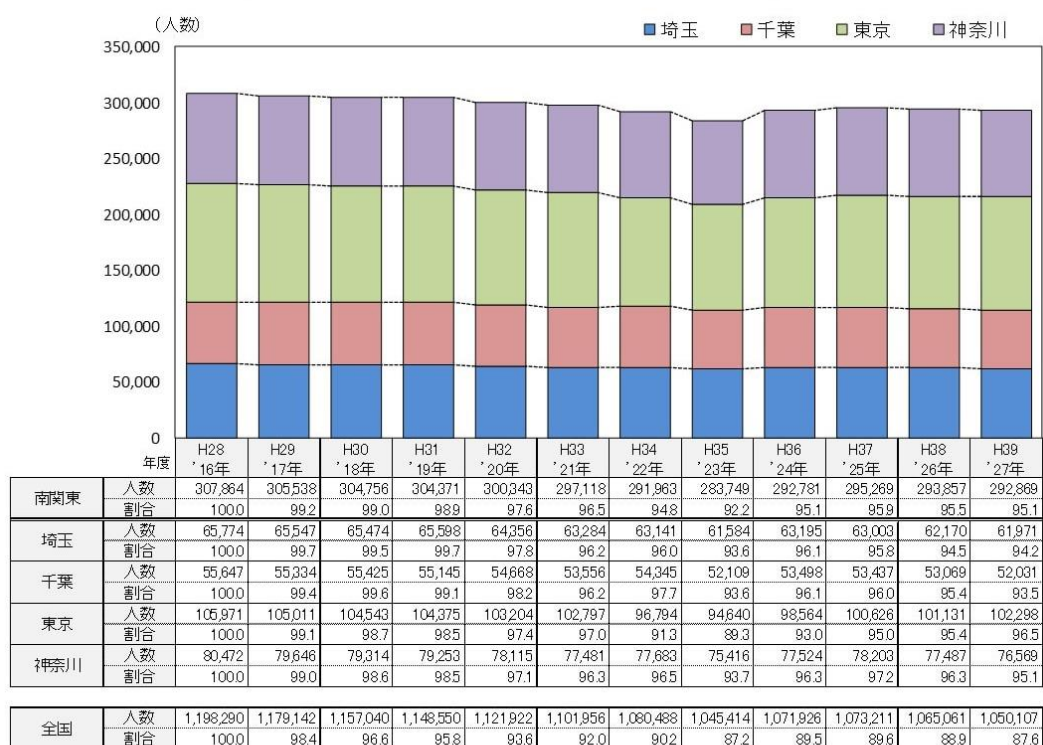
| 芸術・体育・家政(音楽・声優・アニメ・音楽メディア関係等含) | 回答割合  |
|--------------------------------|-------|
| 音楽                             | 15.0% |
| 舞台芸術・演劇(声優含む)                  | 6.3%  |
| 美術・イラスト                        | 8.8%  |
| 書道                             | 1.3%  |
| 体育                             | 4.4%  |
| マンガ・アニメ                        | 10.6% |
| エンターテイメント                      | 7.5%  |
| ファッション                         | 3.1%  |
| インテリアデザイン                      | 3.8%  |
| 食・栄養                           | 3.8%  |
| その他                            | 1.3%  |

〔表 17〕 音楽分野志望者の割合

|             | 高校 1 年生 | 高校 2 年生 | 高校 3 年生 |
|-------------|---------|---------|---------|
| 大学進学希望者数(A) | 208     | 179     | 160     |
| 音楽分野関心者数(B) | 48      | 33      | 24      |
| 割合(B/A)     | 23.1%   | 18.4%   | 15.0%   |

## C 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

18 歳人口の長期的動向（平成 28 年から令和 9 年までの 12 年間）について、平成 28 年(1,198,290 名)と令和 9 年(1,050,107 名)の比較において人口の増減率を算出すると 0.88 倍となり、減少傾向である（図 3）。また、中期的動向（令和 5 年から令和 9 年までの 5 年間）を確認すると、令和 5 年と令和 9 年の比較において、人口の増減率は 1.00 倍である。さらに神奈川県・東京都について同様の方法で確認すると、長期的な人口の増減率は 0.96 倍であり、中期的な人口増減率は 1.05 倍である。全国的に見た 18 歳人口の長期的動向は減少傾向であるが、神奈川県・東京都で見た場合の長期的動向、及び全国的、神奈川県・東京都の両方で見た場合の中期的動向においては、概ね横ばいで推移していることが確認できる。

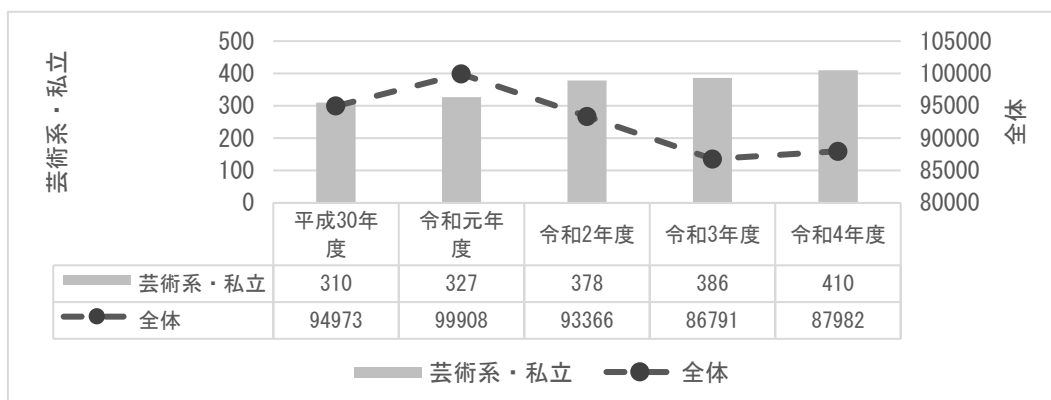


学校基本調査を基にリクルート進学総研にて作成

〔図 3〕 18 歳人口予測 2016～2027 年

※引用：<https://souken.shingakunet.com/research/2017/01/182015-bb85-1.html>

外国人留学生数は、コロナ禍の影響と推察されるが、令和元年度から令和 3 年度にかけて減少し、令和 3 年度から令和 4 年度は若干の回復傾向を示している。しかしながら、芸術系・私立大学の外国人留学生数は平成 30 年度より一貫して増加傾向を示している。



〔図4〕 外国人留学生数推移（学校基本調査）

#### D 競合校の状況

南関東に所在し、音楽系統の学部学科を有する私立大学の動向を競合校として設定し、現状を確認する。競合校として次の8大学を抽出し、分析を行った。

- 【私立】洗足学園音楽大学（神奈川県）
- 【私立】東京音楽大学（東京都）
- 【私立】日本大学 芸術学部 音楽学科（東京都）
- 【私立】国立音楽大学（東京都）
- 【私立】桐朋学園大学（東京都）
- 【私立】武蔵野音楽大学（東京都）
- 【私立】東邦音楽大学（埼玉県）
- 【私立】聖徳大学 音楽学部 音楽学科（千葉県・女子のみ）

##### 1. 競合校の妥当性

上記の大学は既存の募集広報イベント等において、参加者から競合校として挙げられることが多いと共に、当大学が調査機関に依頼して実施した「音楽系統大学への進学動向に関する市場調査」【資料8】においても競合関係にあることが示されている〔表18〕。

〔表18〕 受験候補の大学：昭和音楽大学と同時に候補とされた大学（複数回答あり）（n=11）

| 大学名                              | 人数 | 割合    |
|----------------------------------|----|-------|
| 【私立】洗足学園音楽大学（神奈川県）               | 5  | 45.5% |
| 【私立】東京音楽大学（東京都）                  | 4  | 36.4% |
| 【私立】日本大学 芸術学部 音楽学科（東京都）          | 3  | 27.3% |
| 【私立】国立音楽大学 音楽学部（東京都）             | 4  | 36.4% |
| 【私立】桐朋学園大学 音楽学部（東京都）             | 1  | 9.1%  |
| 【私立】武蔵野音楽大学（東京都）                 | 4  | 36.4% |
| 【私立】東邦音楽大学（埼玉県）                  | 4  | 36.4% |
| 【私立】聖徳大学 音楽学部 音楽学科<br>（千葉県・女子のみ） | 3  | 27.3% |
| 国公立大学の音楽系統の学部                    | 2  | 18.2% |

※回答者：南関東に在住の中学3年生-高校3年生で昭和音楽大学を受験候補と考えている方11名



## 2. 競合校の状況

競合校の入学定員充足率に着目すると直近 3 年において、安定的に入学定員充足が達成されている大学と入学定員充足が継続的に未達の状態にある大学におおよそ二極化している傾向がみられる〔表 19〕。この区分に従うと本学は前者に位置づけられる。入学定員充足が継続的に未達の状態にある大学は、入学定員充足率が低下の傾向にあるか、もしくは、定員減の措置を講じている大学が多い。先に確認した通り、音楽系統の学部の志願者数は横ばいであることが想定されるため、今後、安定的に入学定員充足が達成されている大学の志願者は増加傾向になることが想定される。

〔表 19〕 競合校の入学定員充足率（本学含む）

|     |                                  | 令和 2<br>年度 | 令和 3<br>年度 | 令和 4<br>年度 | 3 年<br>間の<br>平均 | 備考                |
|-----|----------------------------------|------------|------------|------------|-----------------|-------------------|
| 充足  | 【私立】洗足学園音楽大学（神奈川県）               | 1.1        | 1.2        | 1.2        | 1.2             |                   |
|     | 【私立】昭和音楽大学（神奈川県）                 | 1.1        | 1.2        | 1.1        | 1.1             |                   |
|     | 【私立】東京音楽大学（東京都）                  | 1.2        | 1.1        | 1.1        | 1.1             |                   |
|     | 【私立】日本大学 芸術学部 音楽学科<br>（東京都）      | 1.0        | 1.1        | 1.0        | 1.0             |                   |
|     | 【私立】国立音楽大学（東京都）                  | 0.9        | 1.1        | 1.0        | 1.0             | 令和 3 年度<br>定員減    |
| 未充足 | 【私立】桐朋学園大学（東京都）                  | 0.9        | 0.9        | 0.8        | 0.9             |                   |
|     | 【私立】武蔵野音楽大学（東京都）                 | 0.9        | 0.7        | 0.7        | 0.8             | 令和 4 年度<br>定員減    |
|     | 【私立】東邦音楽大学（埼玉県）                  | 0.7        | 0.7        | 0.7        | 0.7             |                   |
|     | 【私立】聖徳大学 音楽学部 音楽学科<br>（千葉県・女子のみ） | 0.5        | 0.5        | 0.4        | 0.5             |                   |
|     | 【私立】上野学園大学 音楽学部<br>音楽学科（東京都）     | 0.2        | —          | —          | 0.2             | 令和 3 年度<br>以降募集停止 |

※各大学公式ホームページ掲載情報を基に本学にて集計

## E. 既設学部等の学生確保の状況

同学部内に併設されている音楽芸術運営学科の状況について、表 20 にまとめた。入学定員充足率にて 0.7 を割っておらず堅調に学生確保が行われている。

〔表 20〕 音楽芸術運営学科における学生確保の状況

|                      | 令和元<br>年度 | 令和 2<br>年度 | 令和 3<br>年度 | 令和 4<br>年度 | 令和 5<br>年度 | 平均     |
|----------------------|-----------|------------|------------|------------|------------|--------|
| A. 入学定員              | 100       | 100        | 100        | 100        | 100        | 100    |
| B. 志願者数              | 152       | 200        | 149        | 131        | 102        | 146.8  |
| C. 受験者数              | 152       | 195        | 147        | 130        | 98         | 144.4  |
| D. 合格者数              | 140       | 167        | 124        | 113        | 89         | 126.6  |
| E. 入学者数              | 125       | 154        | 104        | 94         | 76         | 110.6  |
| F. 入学定員<br>充足率 (E/A) | 125.0%    | 154.0%     | 104.0%     | 94.0%      | 76.0%      | 110.6% |
| G. 志願倍率<br>(B/A)     | 1.52      | 2.00       | 1.49       | 1.31       | 1.02       | 1.47   |

※入学定員充足率は小数点以下第 2 位を四捨五入

本学に併設されている昭和音楽大学短期大学部音楽科（以下、短期大学部）の状況について、表 21 にまとめた。入学定員充足率が減少傾向にある。併設する 4 年制大学の志願者が増えていることから、4 年制大学へと志願者のニーズが変化しているものと分析している。このような社会的動向に対応し、入学定員充足率を適正化するため、短期大学部については、令和 6 年度より別途定員減（減員数 30 名）の届出を実施する。

〔表 21〕 昭和音楽大学短期大学部における学生確保の状況

|                      | 令和元<br>年度 | 令和 2<br>年度 | 令和 3<br>年度 | 令和 4<br>年度 | 令和 5<br>年度 | 平均    |
|----------------------|-----------|------------|------------|------------|------------|-------|
| A. 入学定員              | 100       | 100        | 100        | 100        | 100        | 100   |
| B. 志願者数              | 123       | 152        | 110        | 84         | 94         | 112.6 |
| C. 受験者数              | 123       | 151        | 110        | 82         | 92         | 111.6 |
| D. 合格者数              | 111       | 135        | 95         | 78         | 83         | 100.4 |
| E. 入学者数              | 93        | 107        | 75         | 64         | 65         | 80.8  |
| F. 入学定員<br>充足率 (E/A) | 93.0%     | 107.0%     | 75.0%      | 64.0%      | 65.0%      | 80.8% |
| G. 志願倍率<br>(B/A)     | 1.23      | 1.52       | 1.10       | 0.84       | 0.94       | 1.13  |

## F その他、申請者において検討・分析した事項

学生確保の見通しを分析する上で、募集広報に関するイベントへの参加者数とその満足度は、志願者数を推定する有力な参考値として使用されている。オープンキャンパス、講習会、本学が行う受験対策スクール Pathways（パスウェイズ）の参加者を以下のとおりまとめた（表 22、表 23、表 24、表 25）。これらの表を見ると、直近（令和 4 年度、令和 5 年度）の数値は、それ以前とほぼ同等の数値となっており令和 6 年度においても引き続き例年と同等の志願者数、入学者数を見込むことができる。

〔表 22〕 オープンキャンパスの参加者数

|      | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 | 令和 4 年度 | 令和 5 年度 | 備考                     |
|------|---------|---------|---------|---------|------------------------|
| 3 月  | 中止      | 151     | 151     | 112     |                        |
| 4 月  | 開催なし    | 95      | 95      | 141     | 令和 5 年は 5 月に実施         |
| 5 月  | 中止      | 152     | 187     |         |                        |
| 6 月  | 135     | 75      | 96      |         |                        |
| 7 月  | 191     | 145     | 180     |         |                        |
| 8 月  | 441     | 389     | 622     |         | 夏期講習期間に実施したオープンキャンパス全体 |
| 9 月  | 105     | 83      | 115     |         |                        |
| 11 月 | 88      | 97      | 開催なし    |         |                        |
| 12 月 | 169     | 184     | 262     |         | 冬期講習期間に実施したオープンキャンパス全体 |
| 合計   | 1, 129  | 1, 371  | 1, 708  |         |                        |

※個別で実施した説明会は除く。※オンラインイベントを含める。

〔表 23〕 講習会の参加者数

|        | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 | 令和 4 年度 | 令和 5 年度   |
|--------|---------|---------|---------|-----------|
| 1 月    | 開催なし    | 77      | 73      | 79        |
| 3 月    | 中止      | 115     | 128     | 121       |
| 4 月    | 開催なし    | 102     | 109     | 132       |
| 5 月    | 245     | 121     | 133     | 6 月に実施予定  |
| 6 月    | 126     | 135     | 182     | 6 月に実施予定  |
| 8 月-1  | 342     | 321     | 294     | 8 月に実施予定  |
| 8 月-2  | 69      | 85      | 77      | 8 月に実施予定  |
| 9 月    | 111     | 86      | 132     | 9 月に実施予定  |
| 10 月-1 | 101     | 86      | 121     | 10 月に実施予定 |
| 10 月-2 | 94      | 114     | 75      | 実施せず      |
| 11 月   | 79      | 93      | 59      | 11 月に実施予定 |
| 12 月   | 205     | 211     | 164     | 12 月に実施予定 |
| 合計     | 1, 372  | 1, 546  | 1, 547  |           |

※本学キャンパスで実施したイベントを対象とする。 ※オンラインイベントを含める。

〔表 24-1〕 オープンキャンパス、受験講習会参加者アンケート（令和 5 年度実施分）

|             | オープンキャンパス |       | 講習会 |       |
|-------------|-----------|-------|-----|-------|
|             | 回答数       | 割合    | 回答数 | 割合    |
| 有効回答数       | 123       | 100%  | 98  | 100%  |
| 1. 大変満足     | 85        | 69.1% | 76  | 77.6% |
| 2. 満足       | 37        | 30.1% | 21  | 21.4% |
| 3. 不満       | 1         | 0.8%  | 1   | 1.0%  |
| 4. 大変不満     | 0         | 0.0%  | 0   | 0.0%  |
| 満足度（1+2 合計） | 122       | 99.2% | 97  | 99.0% |

〔表 24-2〕 オープンキャンパス、受験講習会参加者アンケート（令和 4 年度実施分）

|             | オープンキャンパス |        | 講習会 |        |
|-------------|-----------|--------|-----|--------|
|             | 回答数       | 割合     | 回答数 | 割合     |
| 有効回答数       | 705       | 100.0% | 731 | 100.0% |
| 1. 大変満足     | 420       | 59.6%  | 566 | 77.4%  |
| 2. 満足       | 277       | 39.3%  | 155 | 21.2%  |
| 3. 不満       | 3         | 0.4%   | 2   | 0.3%   |
| 4. 大変不満     | 5         | 0.7%   | 8   | 1.1%   |
| 満足度（1+2 合計） | 697       | 98.9%  | 721 | 98.6%  |

〔表 24-3〕 オープンキャンパス、受験講習会参加者アンケート（令和 3 年度実施分）

|             | オープンキャンパス |        | 講習会 |        |
|-------------|-----------|--------|-----|--------|
|             | 回答数       | 割合     | 回答数 | 割合     |
| 有効回答数       | 562       | 100.0% | 587 | 100.0% |
| 1. 大変満足     | 353       | 62.8%  | 455 | 77.5%  |
| 2. 満足       | 207       | 36.8%  | 124 | 21.1%  |
| 3. 不満       | 1         | 0.2%   | 3   | 0.5%   |
| 4. 大変不満     | 1         | 0.2%   | 5   | 0.9%   |
| 満足度（1+2 合計） | 560       | 99.6%  | 579 | 98.6%  |

〔表 25〕 本学が行う受験対策スクール 体験レッスン参加者・入室者数

|         | 体験レッスン<br>参加者数 (延べ) | 入室者数<br>(延べ) |
|---------|---------------------|--------------|
| 令和4年8月  | 3                   | -            |
| 令和4年9月  | 22                  | 5            |
| 令和4年10月 | 11                  | 13           |
| 令和4年11月 | 13                  | 9            |
| 令和4年12月 | 9                   | 8            |
| 令和5年1月  | 11                  | 4            |
| 令和5年2月  | 11                  | 8            |
| 令和5年3月  | 5                   | 4            |
| 令和5年4月  | 22                  | 11           |
| 令和5年5月  | 17                  | 12           |
| 合計      | 124                 | 74           |

## オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

### 【講習会】

年間 40 回を超える講習会を開催する。具体的には、夏期講習会（8 月）、秋から行う受験講習会（9 月・10 月・11 月・1 月）、冬期講習会（12 月）ならびに全国の都市で 4 月から 7 月にかけて行う受験講習会（令和 5 年度は 32 都市で開催予定）によって音楽の実技や理論を中心としたレッスンを行うことで、受験に向けた指導と音楽大学への進学意欲の向上を狙う。進学希望者個々の要望に対応できるよう、個人レッスンやグループレッスン、オンラインレッスン等を提供する。とりわけ、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、令和 4 年度に大幅に通学圏外の志願者数が減った点に対処するため、各講習会を活用して志願者数の回復に取り組んでいる。昨年志願者数が減った地域としては、中部（前年に比べて 17 名減）、九州（前年に比べて 5 名減）が挙げられる。都道府県別に見ると、中部は愛知県や静岡県、長野県、九州は福岡県が減少している。音楽科のある高校は全国に設置されているため、新型コロナウイルスの感染が減少し、行動制限が解除となった場合は回復すると予想している。そのための取組みとして、令和 3 年度より全国での講習会を再開し、令和 4 年度は、大幅に入学者が減少した上記の県全てにおいて講習会の開催を実施した。その結果、令和 5 年度は 306 名に志願者数が回復した。同様の取組みを継続することで、今後も志願者増の効果が見込まれる。【資料 9】

〔表 26〕 音楽芸術表現学科の地域別入学者数

|          | 令和元<br>年度 | 令和2<br>年度 | 令和3<br>年度 | 令和4<br>年度 | 令和5<br>年度 | 平均    |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 北海道      | 6         | 4         | 2         | 6         | 7         | 5.0   |
| 東北       | 11        | 20        | 12        | 12        | 6         | 12.2  |
| 関東（通学圏内） | 129       | 108       | 132       | 129       | 146       | 128.8 |
| 北陸       | 3         | 9         | 11        | 7         | 9         | 7.8   |
| 中部       | 25        | 30        | 31        | 14        | 20        | 24.0  |
| 近畿       | 4         | 3         | 2         | 4         | 6         | 3.8   |
| 中国       | 7         | 9         | 3         | 4         | 3         | 5.2   |
| 四国       | 6         | 5         | 4         | 3         | 3         | 4.2   |
| 九州       | 18        | 16        | 10        | 5         | 6         | 11.0  |
| 沖縄       | 2         | 1         | 1         | 1         | 3         | 1.6   |
| 海外       | 3         | 5         | 8         | 7         | 7         | 6.0   |
| 入学者数     | 214       | 210       | 216       | 192       | 216       | 209.6 |

#### 【受験対策スクール Pathways（パスウェイズ）】

令和4年9月より、本学の教員によるレッスンを継続的に受けることができるよう、受験対策を目的としたクラスを新設。受験に向けた指導と音楽大学への進学意欲の向上を狙う。本スクールの入室者数は令和5年5月時点で延べ74名。本スクールの入室者からの令和5年度の入学者数は19名（内、音楽芸術表現学科への入学者は15名）。同様の取組みを継続することで、今後も入学者増の効果が見込まれる。【資料10】

#### 【オープンキャンパス・進学説明会】

年間13回のオープンキャンパスを開催し、本学の施設見学やレッスン風景、体験レッスン等を実施する。進学希望者個々の相談に対応できるよう、個別相談を必ず設定している。加えてオンラインでの講習会やオープンキャンパスを開催することで、通学圏外（関東以外）の希望者も参加ができるようにする。

また、高等学校や主要都市で実施される進学説明会・ガイダンスに参加することで受験生との接触を増やす活動や、高等学校に直接訪問し音楽教員と情報交換をする取組みを進め、学生の確保に努めていく。また、オープンキャンパス・進学説明会の開催を告知するとともに、社会人の入学希望者に対する個別相談等を別途設ける等の対応により、オープンキャンパス・進学説明会を通じた社会人の受け入れにも重点的に取り組む。【資料9】

#### 【パンフレットの作成・配付】

本学はガイドブックを3月下旬に作成し、学内外に向けてPR活動を行っている。ガイドブックは、資料希望者や講習会・説明会参加者だけではなく、全国の音楽指導者、学校、楽器店等に送付する。またガイドブックだけではなく、新コース専用のリーフレットを作成し、希望者の関心を高める方策にも努めていく。さらに英文の紹介

パンフレットも作成しており、近年、志願者が増加傾向にある留学生等への対応も行っている。

## 【インターネットにおける取り組み】

### ①ウェブサイトの作成

本学のウェブサイトによって PR 活動を行う。令和 5 年 4 月にウェブサイトの全面リニューアルを行い、入試・受験生向けページの動線等の見直しを行った。毎年ウェブサイトへの掲載情報の更新等を行うとともに、演奏会の情報や講習会・説明会情報等は頻繁に更新していく。また興味・関心の高い情報も発信していく。さらに留学生への PR 活動として、日本語のホームページだけでなく、英語のホームページも開設している。

### ②その他インターネット媒体での取り組み

本学では LINE と Twitter、Instagram により情報発信を行う。また、インターネット上の音楽大学進学情報サイトやリスティング広告等も積極的に活用し、講習会やオープンキャンパスへの参加者や本学の資料請求者の獲得に努めていく。

## 【その他の広報活動】

音楽専門雑誌等に情報を掲載し、講習会や説明会等の開催について積極的に広報することで、学生の確保に努める。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学の建学の精神は、「礼・節・技の人間教育」で、礼節を重んじ豊かな人間性と教養を身につけた個性ある音楽家を育成することにある。昭和音楽大学の開学にあたり「礼・節・技の人間教育」という簡潔にして明快な標語を建学の精神として、今日に受け継がれている。

その建学の精神の基に音楽芸術表現学科では人材養成目的を以下のとおり定めている。

## 人材養成目的

音楽芸術表現学科は、国際的な視野をもって幅広いジャンルの音楽作品を創造できる、または舞台等で実践的に活躍できる人材を育成するために専門教育を行う。

- ・作曲・音楽デザインコースにおいては、アカデミックな音楽能力を基盤として豊かな創造力を持つ芸術音楽の作曲家またはコンピューターを始めとするデジタルテクノロジーを駆使した作品を制作できる作曲家を育てる。
- ・サウンドプロデュースコースにおいては、様々なジャンルの音楽に精通し、音楽産業界に幅広く貢献できるクリエイター、プロデューサーを育てる。
- ・指揮コースにおいては、音楽作品に対する洞察力を養い、芸術性豊かな表現を創造する指揮者を育てる。
- ・ピアノ音楽コース、ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ演奏家コース、オルガンコース、電子オルガンコース、弦・管・打楽器コース、ウインドシンフォニーコース、弦・管・打楽器演奏家コースにおいては、個々の学修者の目指す将来像を尊重し、ソロやアンサンブルの演奏家、優れた指導者を育てる。
- ・ジャズコース、ポップ&ロックミュージックコースにおいては、表現技術を総合的に学び、多方面で活躍できる優れたミュージシャンを育てる。
- ・声楽コースにおいては、ベルカント唱法に根ざしたきめ細かい指導により、歌手としての基礎能力を身につけると共にオペラ教育と海外研修を通じて西欧文化を吸収し、協調性や国際性を養い、個性と創造性豊かな音楽家を育てる。

音楽芸術表現学科にあるコースそれぞれの学びの特長が具体的に学生に伝わるようコース名を表記している。3つのポリシーのうち、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーは学科ごとに専門的能力、学士力に分け、さらに専門的能力の下に「基礎力」「技術力」「専門知識」「表現力」「実践的活動能力」を、学士力の下に、「知識・理解」「汎用的能力」「態度・志向性」「創造的思考力」を設定し、それらの能力が獲得できるよう授業科目を配置している。



② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学の音楽学部就職の過去3年間の就職状況は以下のとおりである。

〔表 27〕 就職の状況

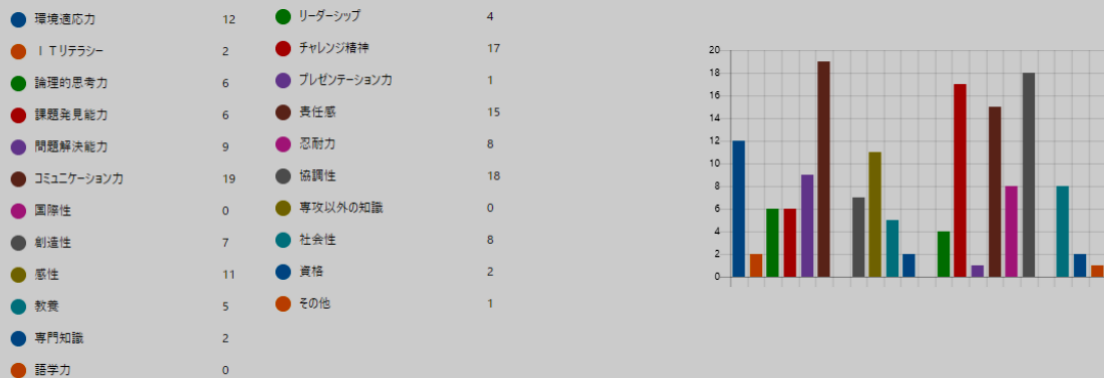
|                  |       | 卒業者数 | 就職希望者数 | 就職者数 | 就職率(%) | 求人社数  | 求人倍率  |
|------------------|-------|------|--------|------|--------|-------|-------|
| 音<br>楽<br>学<br>部 | 令和2年度 | 253  | 160    | 137  | 85.6%  | 7,987 | 49.9倍 |
|                  | 令和3年度 | 261  | 165    | 139  | 84.2%  | 8,085 | 49.0倍 |
|                  | 令和4年度 | 298  | 178    | 164  | 92.1%  | 8,187 | 46.0倍 |

就職率は、就職希望者が実際に就職した割合であるが、卒業生のうち就職する者は例年約半数となっている。令和2年度の進路先の状況としては、就職者が137名、進学者が38名、無業者・未定者が78名となり、就職者の内訳は、中学・高等学校の教員等の教育・学修支援業を筆頭に、卸売・小売業、医療・福祉、生活関連サービス業、宿泊業等多岐にわたる。また、求人社数に対して就職希望者数の求人倍率は令和2年度49.9倍であった。過年度と比較して50倍を下回る結果となったが、コロナ禍においても高い倍率となっている。

音楽大学では卒業後のキャリアとして、企業就職だけではなく、進学、自己研鑽や留学準備、自活しての音楽活動等、様々なキャリアに対応する必要があるため、学生が3年次の際にキャリアセンターのキャリアコンサルタント（国家資格保有者）や就職相談員等による全員面談を実施し、学生個々の卒業後の進路先を把握するように努めている【資料11】。

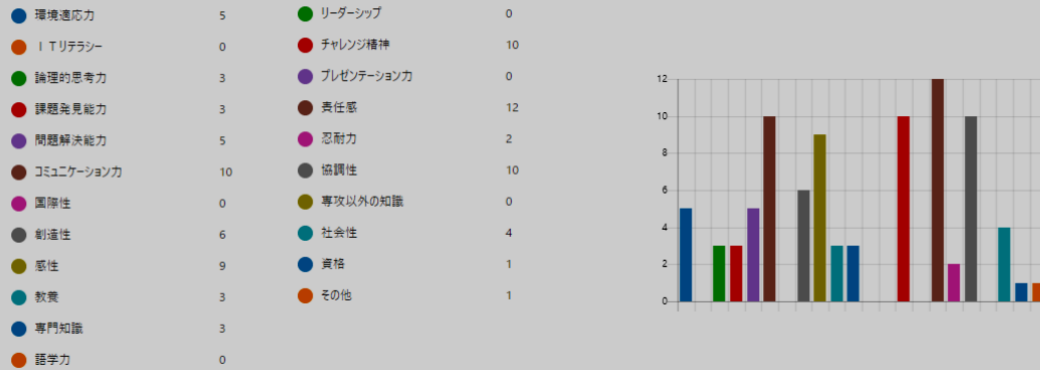
さらに、キャリアセンターでは、本学卒業生の就職先である企業に令和3年10月にアンケート（併設大学と合同実施）を実施した。そのアンケートの設問の中で、「どのような人材を求めているか」「求める人材の中で特に“音大卒”に求めるものは何か」の設問に対して共通して回答の多かったもの（10社以上）が、「コミュニケーション力」「協調性」「チャレンジ精神」「責任性」であった。

8 どのような人材を求めているらっしゃいますか（複数回答可）



〔図5〕 卒業生の就職先企業へのアンケート：求める人材

9 求める人材の中で特に“音大卒”に求めるものをお知らせください（複数回答可）



〔図6〕 卒業生の就職先企業へのアンケート：“音大卒”に求めるもの

本学のディプロマ・ポリシーにおいて、「コミュニケーション力」は、「汎用的能力」の中にコミュニケーション能力として獲得できることを明記、「協調性」は「態度・志向性」の中にチームワーク・リーダーシップが獲得できることを明記、「責任性」は「態度・志向性」の中に社会的責任が獲得できることを明記している。本学の人材養成に関する目的が社会的、地域的な人材需要の動向をふまえたものであることが確認できる。

また、本学では併設する短期大学部と合同で学外有識者会議を平成2年度から定期開催し、本学で設定しているカリキュラムの内容、学修成果ならびに入学者選抜が適切に行われているか、本学が定める3つのポリシーが適切か等、学外の視点から意見を聴く機会を設けている。この会議に招聘した学外有識者は、麻生区役所職員、川崎市文化財団理事長、地元企業の社長、弁護士、地元金融機関支店長、音楽関連企業社員等、地域社会で活躍している者、音楽業界に精通する者である。学外有識者から寄せられた様々な意見は、教職協働で運営する委員会組織で点検・確認し、カリキュラム運用の改善に活用している。

上記のほか、地域における連携事業に数多く参画、協力をしていることで、地域のニーズを直接的に聞く機会を設けている。